附属幼稚園の庭の一部が、役所の官舎を建てるために、奪われそうになるというできごとがあった。この土地は、何百年もたったような大銀杏のある場所でもあり、自然の雑草園として長年子どもたちに親しまれてきた土地であった。さいわい、いろいろの方々の努力により、この案はとりやめになった。

しかし、ひろく眼を転じてみると、東京中、日本中いたるところで、自然が破壊され、子どもの遊び場が奪われるということが起こっている。ビルが建つためにあるいは工場が建つために、子どもの生活からは自然が少なくなっていく。また使われていない空地まで、鉄条網がめぐらされたり、ブロック塀がつくられたりする。それにはいちいちもっともらしい理由があり、もともと幼稚園の土地ではないとか、法律的には所有者が異なるとかそうする社会的必要があるというような説得がなされる。そういうときに、幼稚園の先生というのは、それに対抗するだけの議論もできないし、多くの場合、どうにもならない大きな力にのみこまれてしまうのであろう。その結果、いちばん被害をうけるのは、子どもたちである。幼い子どもたちは、いいかえすだけのことばをもたないし、ゲバ棒でとどめるだけの力ももたない。だれかが幼い子どもたちの側に立ち、彼らに代わって発言をし、また行動をしていかなければならないのである。

自然は人間の生活ときりはなすことのできないものであり、緑の木や草、土と水、虫や生きもの、日光と新鮮な空気は、子どものまわりになくてならないものである。自然は科学教材にとどまるものではない。それは子どもの心をつくっていくのに欠くことのできないものである。しかも今の世の中で、よほどおとながいっしょうけんめいにならなければ、子どもには確保することができないのである。

全国の幼稚園で、このような子どもの生活環境を守るためのたたかいで苦しんでおられるところがあるならば、どうぞ寄稿していただきたい。この小さな雑誌がいささかでも役に立つならさいわいである。

幼児の教育 第六十八巻 第九号

九月号 © 定価八〇円

昭和四十四年八月二十五日 印刷
昭和四十四年九月 一 日 発行

東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内
編集兼発行者 津 守 真

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内
発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一一
印刷所 凸版印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一
発売所 株式会社フレーベル館
振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレーベル館にお願いいたします